

番号	6	平成27年度公共事業再評価調書				担当課名 砂防課	
事業名	急傾斜地崩壊対策事業			事業主体	静岡県		
箇所名	ながぬま ごろう まつ 長沼五郎松			関係市町村	静岡市		
事業採択年度	平成23年度		計画期間	平成23年度 ~ 平成30年度			
用地着手年度	平成25年度		工事着手年度	平成25年度			
再評価理由※	事業採択(H23)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~H25年度	H26年度	H27年度見込	計	
	230		45	55	20	120	
事業概要	<p>(1)事業目的 急傾斜地崩壊防止施設の設置により、住宅等に及ぶがけ崩れ災害を防止し、住民の安心・安全な生活基盤の確保を図る。</p> <p>(2)事業内容 コンクリート擁壁工（高さ2.5~7.0m） 延長：189.1m 法面吹付砕工 面積 848m²</p>						
事業の必要性等	<p>【視点1】</p> <p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 被害想定範囲（がけ崩れが発生した場合に土砂が到達すると想定される範囲）内には、人家20戸（集合住宅含む）のほか、普通河川義呂川、生活道路となる市道が2路線ある。過去には人家裏で斜面崩壊が発生しており、今後も崩壊の危険性は高い。 平成20年3月には、土砂災害防止法に基づく土砂災害（特別）警戒区域の指定がなされ、警戒避難体制の整備が進められている。 近年、集中豪雨が頻発化する傾向にあり、昨年には広島市で大規模な土砂災害が集中的に多数発生し、社会的な注目を集めた。このような状況下から、長沼五郎松地区においても当事業の継続が望まれている。</p> <p>(2)事業の投資効果 投資効率（費用対効果）B/C：3.14 総便益：725.8百万円 総費用：230.8百万円</p> <p>(3)事業の進捗状況 事業費進捗率（H27末）：52.2%（120百万円/230百万円） 事業量進捗率（H27末）：コンクリート擁壁工 25.9%（48.9m/189.1m） ：法面アンカー工 16.9%（11本/65本）</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
今後の事業の進捗の見込み	<p>【視点2】</p> <p>これまで、用地買収や工事協力などの地元調整が円滑に行われており、今後の事業についての反対者等もない。アンケート結果でも、回答者の多くが「事業を継続する必要性を感じる」と回答しており、事業に対する地元の要望も強い。 引き続き、地元の協力関係の維持・向上などに努めることから、今後も事業は順調に進捗し、平成30年度完了見込みである。</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
コスト縮減・代替案立案等の可能性	<p>【視点3】</p> <p>事業実施にあたっては法面对策工法の比較検討において、安全性、経済性において最適な対策工法を選定し、コスト縮減に努めている。また、当該箇所は風致地区にあたることから、アンカーの受圧板を通常のコンクリート製ではなく、金属と強化プラスチックを複合したメッシュ状のものを採用するなど、緑化にも配慮した計画選定を行っている。</p>						
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を（ <input checked="" type="radio"/> 継続 ・ 見直し後継続 ・ 中止 ）する。</p> <p>(2)理由 事業は順調に進捗しており、費用対効果も認められることから、事業を継続して整備の促進を図る。</p>						

費用対効果算出説明書

「長沼五郎松」急傾斜

(「急傾斜地崩壊対策事業の費用便益分析マニュアル(案)」建設省砂防部)

総括表

総便益B	[事業を実施しない場合の被害額]－[事業を実施した場合の被害額]	725.8百万円
総費用C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	230.8百万円
B/C		3.14

総便益

[急傾斜事業を実施しない場合の被害額]－[急傾斜事業を実施した場合の被害額]

年平均被害軽減期待額を評価対象期間58年(整備期間8年＋耐用期間50年)について累計する。ただし、年平均被害軽減期待額は算出基準年(平成27年)に基づく社会的割引率(4.0%)で現在価値化したものとする。

$$\begin{aligned} \text{便益計} &= \sum \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n \\ &= 725.8 \text{百万円} \end{aligned}$$

- ※ 年平均被害軽減期待額: かけ崩れ発生 of 生起確率(1/10年超過確率降雨及び1/50年超過確率降雨)それぞれに対応した被害軽減額の平均値の合計。
- ※ 人的被害額/1人あたりは、1/50年超過確率降雨のみで発生し、市町の人口比率を反映した各年齢別人的被害額の合計額である。その合計額を被害想定区域内の年齢別死者数を想定し乗じて人的被害額を算定する。
- ※ 整備期間中の被害軽減額は、事業費に比例して発生するものとする。

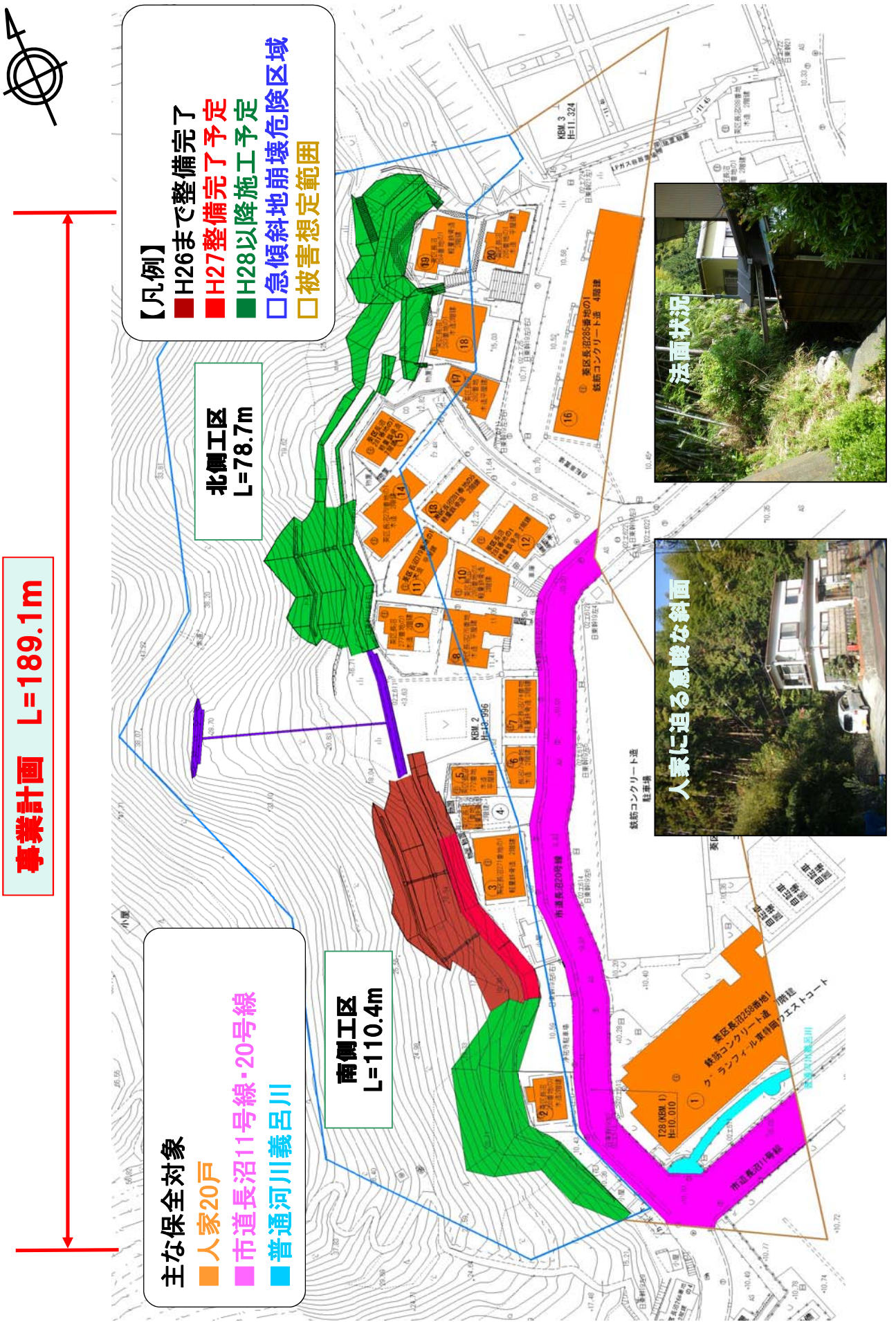
総費用

[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]

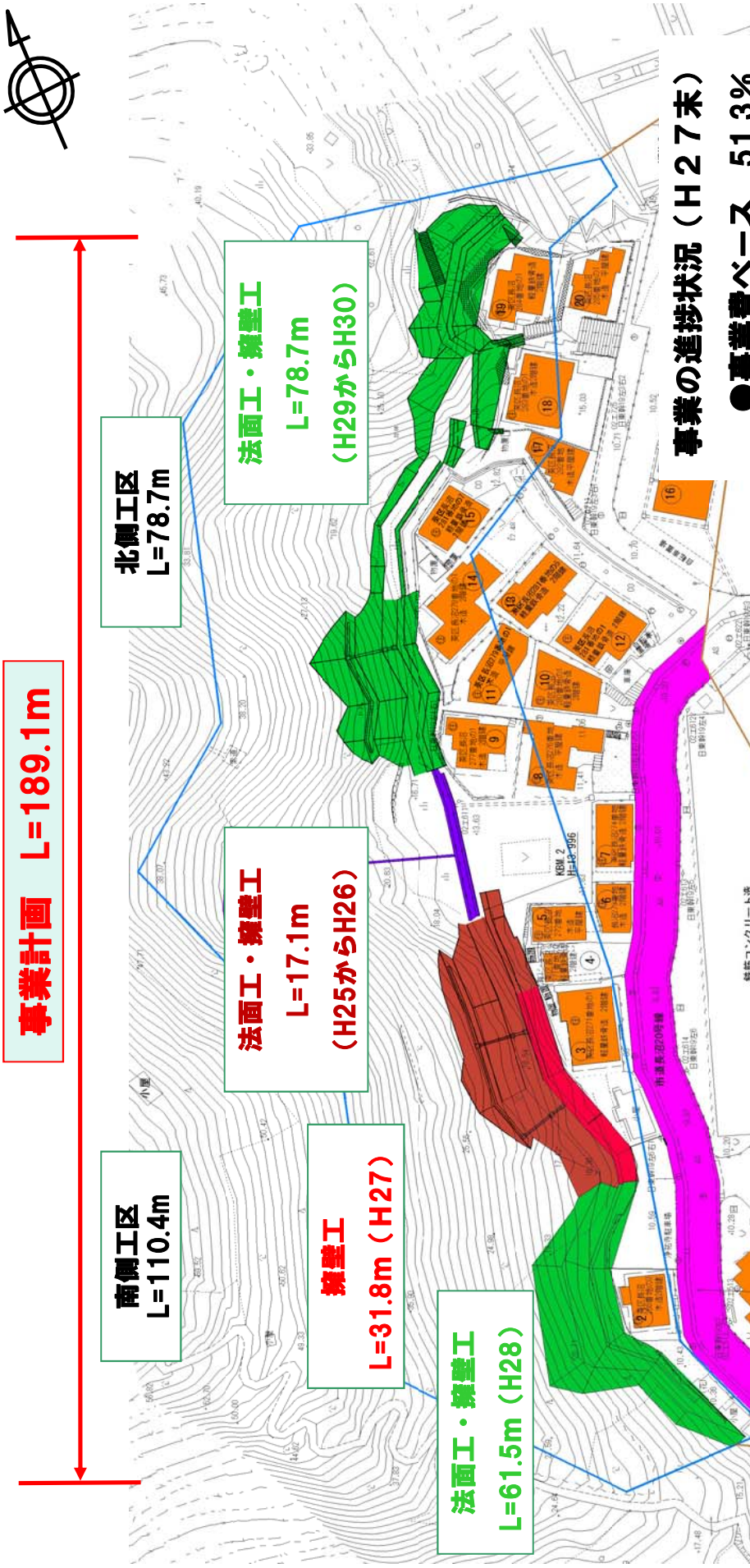
各年次の建設費と維持管理費(過去5ヶ年の平均値)を評価対象期間58年(整備期間8年＋耐用期間50年)について累計する。ただし、各年次の建設費及び維持管理費は、算出基準年(平成27年)に基づくデフレータ及び社会的割引率(4.0%)で現在価値化したものとする。

$$\begin{aligned} \text{費用計} &= \sum \text{年間建設費} / (1+0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\ &= 228.8 \text{百万円} + 2.0 \text{百万円} \\ &= 230.8 \text{百万円} \end{aligned}$$

長沼五郎松 事業概要



施設の整備状況と今後の対策工事



事業計画 L=189.1m

南側工区
L=110.4m

北側工区
L=78.7m

擁壁工
L=31.8m (H27)

法面工・擁壁工
L=17.1m
(H25からH26)

法面工・擁壁工
L=78.7m
(H29からH30)

法面工・擁壁工
L=61.5m (H28)

事業の進捗状況 (H27末)

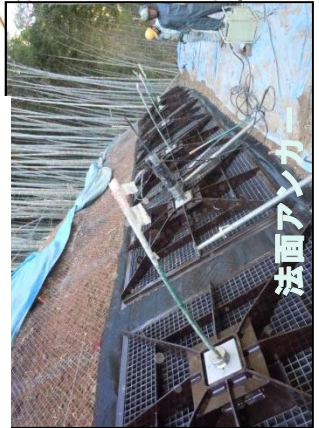
● 事業費ベース 51.3%

総便益	723百万円
総費用	231百万円
B/C	3.14

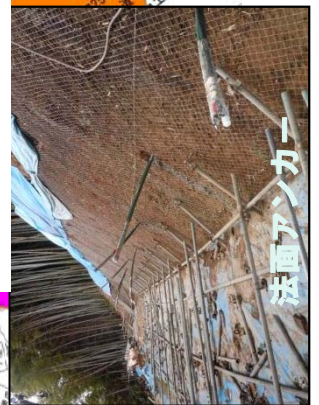
H27年度まで
人家5戸保完了

引き続き、人家15戸への施設整備を継続する

南側工区 施設整備の状況

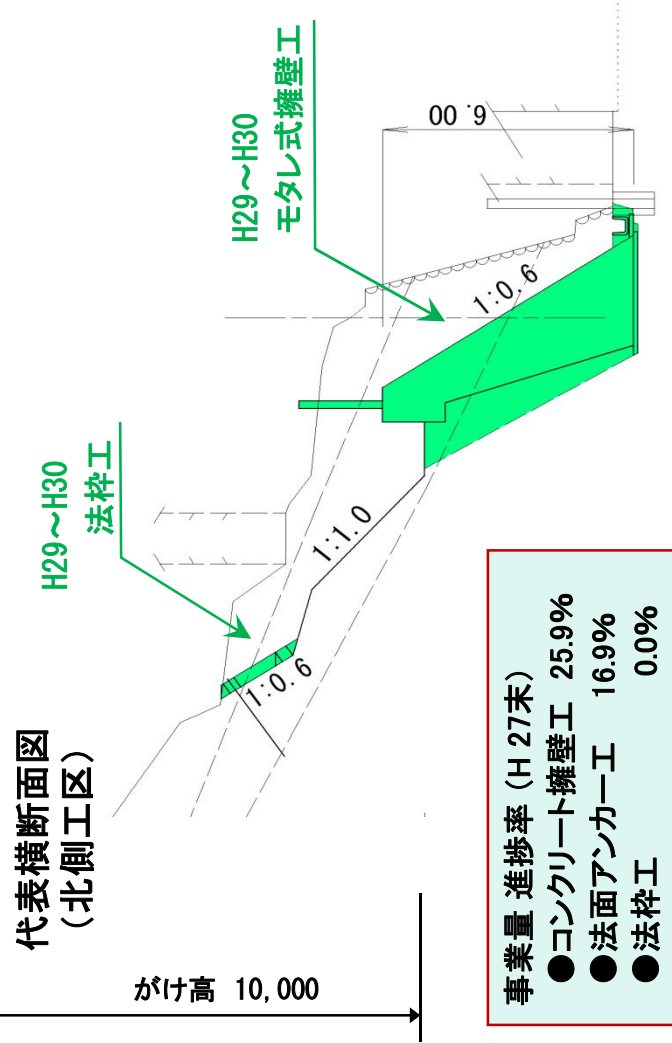
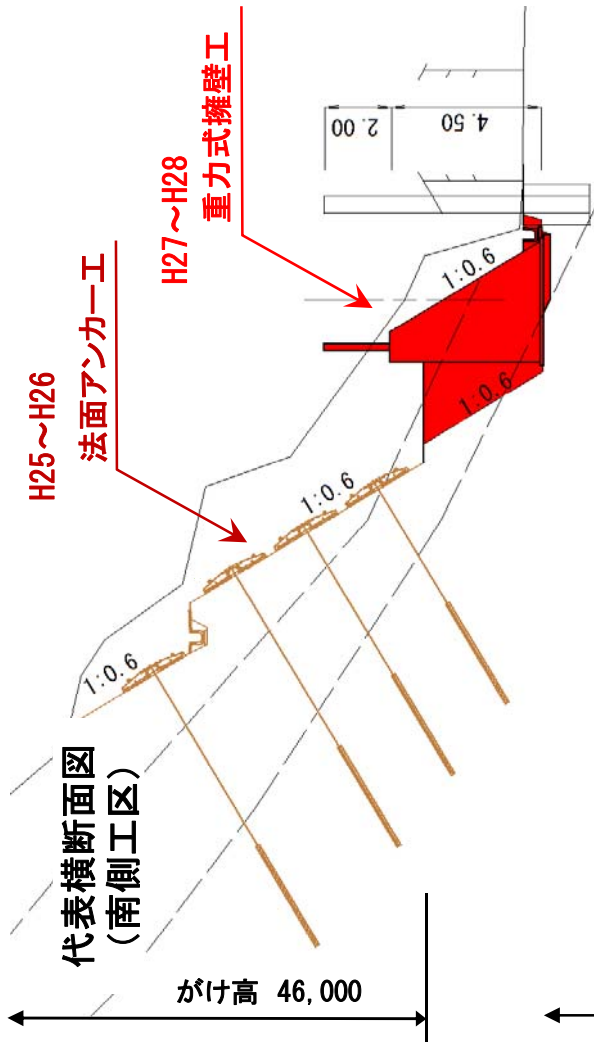


法面アーカー



法面アーカー

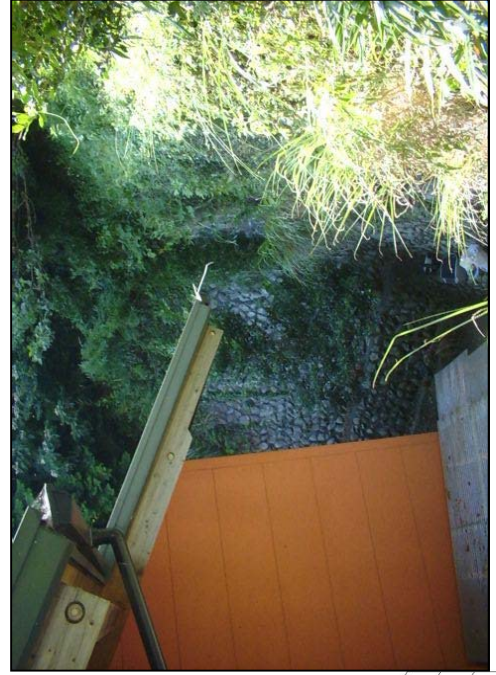
施設の整備状況と今後の対策工事



事業量 進捗率 (H 27末)	
●コンクリート擁壁工	25.9%
●法面アンカー工	16.9%
●法枠工	0.0%



整備予定箇所



整備予定箇所 (既設石積)